

平成27年度 第2回愛知県生涯学習審議会会議録

1 開催期日

平成28年2月17日（水）午前9時30分から午前11時まで

2 場 所

愛知県議会議事堂ラウンジ

3 出席した委員の氏名 12名

足立誠、大島伸一、加来正晴、木本文平、久野哲生、後藤澄江、西山妙子、松田武雄、武藤晴彦、山内晴雄、吉川佳代、吉田とき枝

4 欠席した委員の氏名 6名

恩田やす恵、河合智仁、志村貴子、服部重昭、林寛子、牧野秀泰

5 会議に付した事項

議 題

- (1) 超高齢社会に対応した生涯学習の在り方について
- (2) 平成28年度愛知県生涯学習推進計画事業（案）について

6 会議の経過

- 会議録署名人の指名
会長から西山委員と武藤委員を署名人に指名
- 超高齢社会に対応した生涯学習の在り方について
事務局から説明、質疑応答は別紙のとおり
- 専門部会の検討経過について
専門部会長から説明
- 平成28年度愛知県生涯学習推進計画事業（案）について
事務局から説明、質疑応答は別紙のとおり

【超高齢社会に対応した生涯学習の在り方について（資料1、資料2、資料3）】

○ 前回の審議会で生涯学習のプラットフォームについて質問したが、今回の資料では、それが具体的に見えるような文章と図になっている。このプラットフォームについては、コーディネーターの配置ということが成功の鍵であると考えているが、コーディネーターを配置する予算的な裏付けというものはどのように考えているのか。
→事務局： 今後は平成29年度以降の予算において、いくつかの市町村でモデル的に実施していきたいと考えている。その中で課題などを押さえていくことが重要であり、モデル事業を進めながら検討を行っていききたいと考えている。

○ 将来的には、市町村が主体となってやっていくということで、最初はいろいろな形で県が関わって、助成など行っていくが、どこかで市町村が自立して継続実施していくのが、本来の姿かと思う。

○ 県の生涯学習課がモデル市町村を支援していくに当たっての具体的な在り方はどのようなものになるのか。

→事務局： 新たな職員を配置していくということは現実的には難しいが、現行の体制を維持しながら進めていきたいと考えている。

○ 資料1の36ページで地域が一体となった学びのプラットフォームとあるが、実態として地区の自治会を担っているような方は老人クラブにも入っている。図では分かれていても、実態からすると担う人は同一である。しっかりと精査して地域に下ろしていかないと、オーバーワークになってしまう。

→事務局： ご指摘のように対象となる方が重なってくることはあり得ることであり、今後、関係市町村と取組を進めていく中で検討していくべき課題と考えている。

○ 愛知県内に市町村はたくさんあり、状況はすべて異なっているので、あくまでもこの図は一例で、参考として見ていくものであると思う。すべての市町村がこの図のとおりに進めていくことはできないと思う。

→事務局： 例えば、地域モデル①については、過疎地域における取組の一例をお示ししている。

○ あくまで一例を示しているということで、県の方でまずは考え方を提示するが、モデルを参考としながら、地域の実状に合わせて変えていきたいということがあれば、それはそれで歓迎するということか。

→事務局： いろいろと市町村のご意見も伺いながら、実態にあったものにしていききたいと考えている。

○ 地域への興味関心に応じて活動機会を提供するコーディネーターの役割というのが非常に重要になってくる。コーディネーターは、たいへんな役割であると思うが、期待したい。

○ これまでの行政の手法では、今迎えている状態を乗り切っていくことは相当難しい。次に、地域、市町村、更には小学校区、中学校区で見ても高齢化率、就学率、貧富の差、文化の違いなどあまりにも違い過ぎるので、これを一律の施策で行おうとするのは、相当に無理がある。基本的には市町村の実態に合わせて対応していかざるを得ないと思う。はっきりしていることは、今までのやり方では限界が来ており、この状況をどのように打ち破っていくかということを通の認識として持つておく必要がある。

そして、県の役割について、これから明確にしていかなければならないと思うが、いくつかのキーワードは出てきている。それらがどのように具体的な内容につながっていくのか、今の段階ですっきりと気持ちよく整理するのは難しいが、走りながら考えていかざるを得ないのだろうと思う。

○ 学校、大学、高校という部分もこのプラットフォームに加えていただくと自分たちにも出番があるかと思う。例えば、リカレント教育などもできると思う。

○ 地域の資源はシニアの方々である。そうした人がいろいろなところに携わって、生きがい、やりがいを感じて、無理なく楽しんで活動していただき、充実感の創出や世代間交流、地域貢献について、良い方向が見えてきているので、さらに進めていけると良いと思っている。そして、学んだ人が次は教える側に立って、人づくり、まちづくりにつなげていくというような循環も生涯学習のあるべき姿として、さらに充実させていくと良いと思う。

○ 美術館、博物館について、健康の維持というのは難しいかもしれないが、心の健康は維持できる。従って、充実感の創出ということが美術館、博物館に求められることだと思う。このフローチャートをもっと充実させていくには、美術館、博物館の活用ということをもっと打ち出しても良いのではないかと。

○ 自分たちには生涯学習という言葉は当たり前に入ってくるが、一般の方にはまだまだ難しい言葉かと思う。生涯学習について、各世代に分かりやすく下ろしていくことについて、ご一考いただきたい。自分の経験で言うと、若い世代と地域の高齢の方々とは一体となって何かを行っていくのは難しいものであるが、子どもが介在するとうまくいっている。子どもが地域の方々と育っていくというのは、古い考え方もかもしれないが、いま求められていることだと思う。

○ 愛知県は一人一人が輝くということを謳っているし、現在は社会の変化が非常に激しいので、それぞれの世代が自分自身を見つめ直したり、人とのつながり方を考え直したりするような機会として、生涯学習というものがあってほしいと思う。個別の生涯学習の場を提供するだけでなく、地域というものを重視し、地域において顔が見える関係の中で、ともに学び合うような循環ができれば良いと思っている。特に世代間交流が進むような仕掛けを積極的に行っていくということが非常に重

要だと思う。

- 自分たちのような団塊の世代にこのような形で、生涯学習の機会を提供していただけることは、非常にありがたいことだと思う。今は70歳を過ぎても元気なので、こういうことに参加できると良いと思う。
- 産学官民が連携したプラットフォームについて、ある程度の大企業はこういうことも可能かと思うし、実際にライフプランセミナーなどいろいろ行っているので、参画していくことはできると思う。ただ、中小零細企業において、果たして参画することができるのだろうか。そのあたりは行政がしっかりと目を向けて、このプラットフォームに参画できるような環境を整えていただきたい。
- 超高齢社会ということであるが、決して老いた人ばかりがいる社会ではない。これからの社会で、高齢者の知恵をいかに伝承していくか、そしていかに生きがいを作っていくかということは、とても重要なことであり、そのためにはやはり若い世代との交流が大切であると思う。難しい問題ではあるが、高齢者が若い世代と活発に交流できるような社会を考えていく必要があると考えている。
- アンケートにもあるように、世代間交流を望んでいるが、その機会がないということであり、いろいろなところでそうした機会をセッティングして、年上の者が年下の人に様々なことを伝えていくということが大事であり、年が下の人たちも自分が学んだ経験をさらに自分が年上になった時に、当たり前のように年下の人たちに伝えていくという、先ほど循環という言葉があったが、そんな愛知県であったら良いと思う。
- 世代間交流ということで、小さいお子さんがいる保護者の方と高齢者の方との関わりというものが、これからいろいろな場で増えてくると本当に良いと思う。生涯学習というと難しいことのようにも思えるが、実は身近なところでいろいろな活動が行われている。生涯学習という難しい言葉ではなくて、生きがい探し、学ぶことが楽しい、役に立つことがうれしいといった視点でいろいろなことを考えていくと良いと思う。
- これまでのご意見を参考に、事務局の方で案を修正して、私が最終的に目を通して、了解を出すということによろしいでしょうか。

(異議なし)

【平成 28 年度愛知県生涯学習推進計画事業（案）について（資料 5、資料 6）】

- 子ども若者育成支援ネットワークについて、法が施行されてから、もう何年も経つにも関わらず、設置市が少ないようであるが、何か背景や理由のようなものはあるのか。

→事務局： 54 市町村のうち 11 市というのは少ないように思われるかもしれないが、実際には、以前、日本経済新聞にも載っていたが、全国でこの協議会があるのは都道府県・市町村すべて合わせて 87 しかない。そのうちの 11 が愛知県の市町村であるということで、全国的に見れば非常に進んでいると思う。設置が進んでいない理由としては、いろいろな分野にまたがっているため、調整機関としての担当部署の設置が難しいことなどを聞いている。県としても、市町村をまわって、設置についての働きかけを行っている状況である。

- 平成 28 年度事業について、世代間交流できるような事業がたくさんある。できるだけ高齢者の方々に声をかけて、専門性を持った方々はもちろんであるが、そうでない方々にも参加して活動できるような場を提供していただきたい。